

パシフィックシステム株式会社
平成23年3月期
決算説明会

平成23年6月17日

代表取締役社長 久保 永史

- 平成23年3月期連結決算概況
- 今後の経営方針
(13中期経営計画)

平成23年3月期 トピックス

主なIR情報

[平成22年]

- ◆ 5月 データセンターを埼玉県下に移設
- ◆ 6月 執行役員制度を導入

[平成23年]

- ◆ 2月 連結子会社パシフィックテクノス株式会社を吸収合併
- ◆ 2月 本社機能を東京からさいたま市の新本社ビルに移転

平成23年3月期 トピックス



平成23年3月期 トピックス

商品・サービス

- ◎ 全周囲果实外觀センサー（昨年5月発表）

全周囲果実外観センサー



平成23年3月期 トピックス

商品・サービス

- ◎ 全周囲果実外観センサー（昨年5月発表）
- ◎ 「低コスト」で「安心」「安全」なデータセンタサービスの提供を推進

新データセンタ



平成23年3月期 連結決算ハイライト

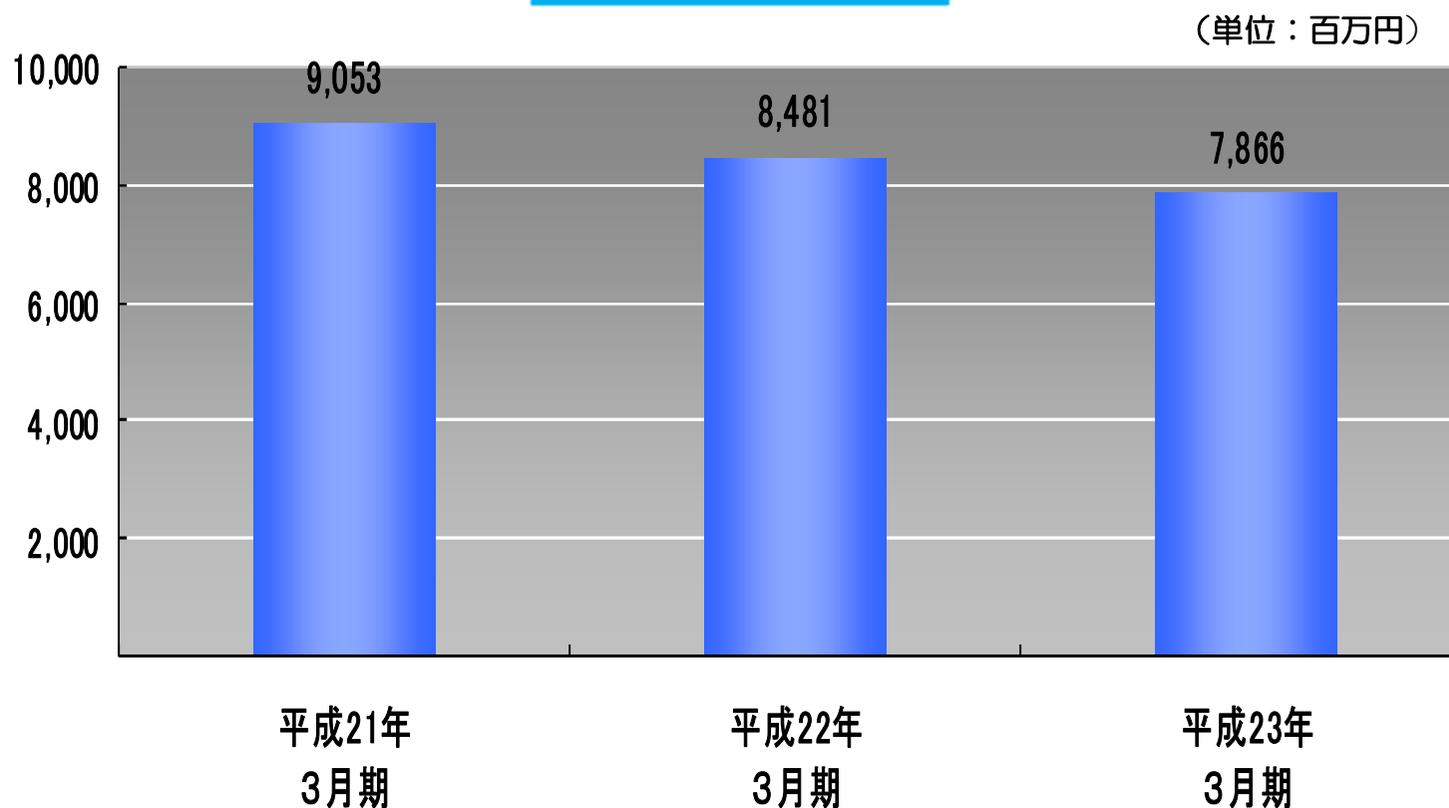
(単位：百万円)

決算年度	平成22年 3月期 (A)	平成23年 3月期 (B)	前期比 (B-A)	増減率
売上高	8,481	7,866	△615	△7.3%
売上総利益 (利益率)	1,864 (22.0%)	1,616 (20.5%)	△247	△13.3%
販売管理費	1,403	1,368	△34	△2.5%
営業利益	460	247	△213	△46.3%
経常利益	456	258	△197	△43.4%
当期純利益	239	30	△209	△87.4%

- 売上高は、全般的な情報化投資抑制の影響により減収となりました。
- 営業利益、経常利益は、各種経費を削減いたしましたが減益となりました。
- 当期純利益は、本社移転関連、東日本大震災の災害損失、有価証券評価損等の特別損失を計上したことにより減益となりました。

平成23年3月期 連結売上高の推移

売上高



- 景気回復の遅れによる全般的な情報化投資抑制の影響を受け、2年連続減収となりました。

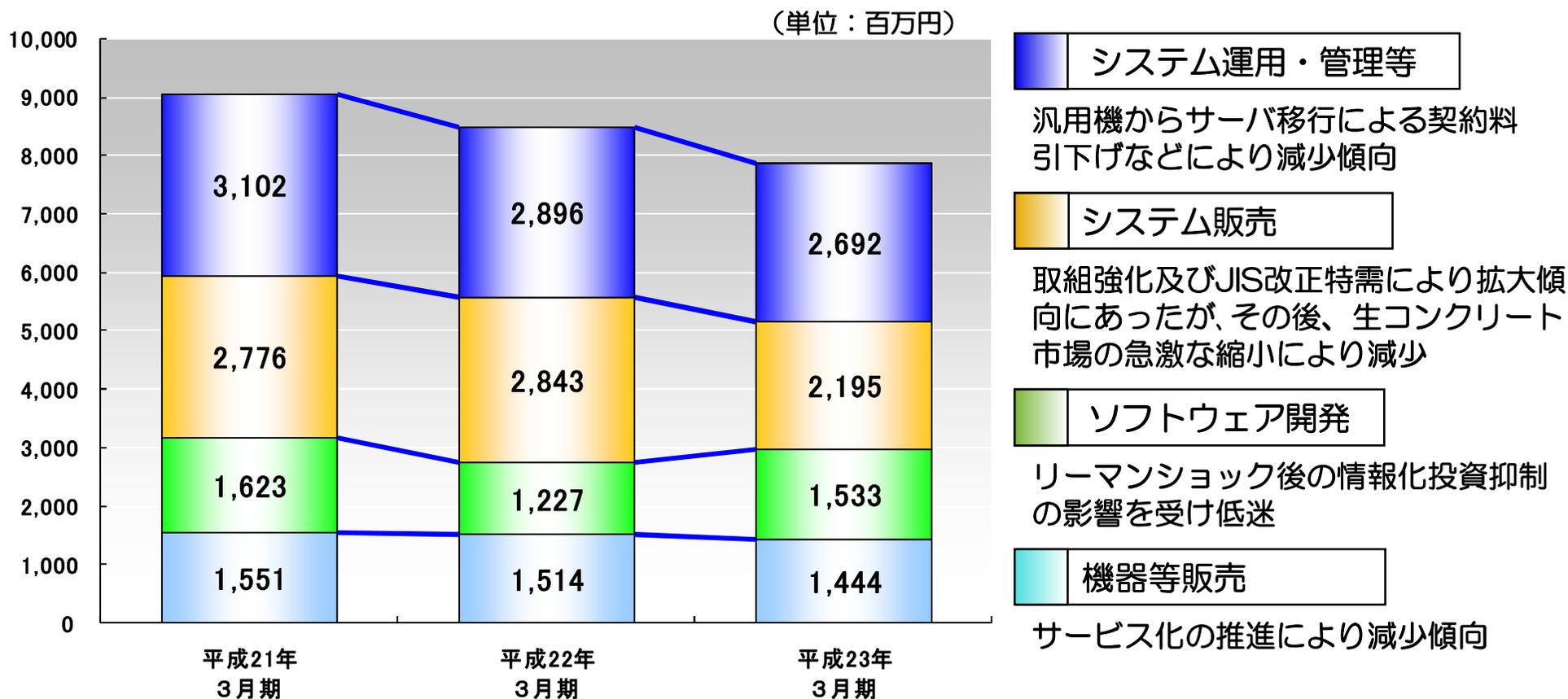
平成23年3月期 事業区分別の概況

区分	内容	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
システム運用・管理等	・システム運用支援サービス ・アウトソーシング・データセンタ	2,692	34.2 %	7.0% 減
システム販売	・画像処理システム ・農業生産管理システム ・生コンクリート業界向けシステム等販売 ・ネットワーク構築等のインフラサービス	2,195	27.9 %	22.8% 減
ソフトウェア開発	・製造・流通・金融業等のアプリケーションの受託開発	1,533	19.5%	24.9% 増
機器等販売	・パソコン・サーバ及び周辺機器 ・パッケージソフト等の販売	1,444	18.4%	4.6% 減
合 計		7,866	100%	7.3% 減

- 「システム運用・管理等」は、契約料の引き下げ等により減少。
- 「システム販売」は、生コンクリートJIS改正特需の反動、インフラサービス案件低調により減少。
- 「ソフトウェア開発」は、前期より開発の大型案件が完成したこともあり増加。
- 「機器等販売」は、全般的な情報化投資の抑制等により減少。

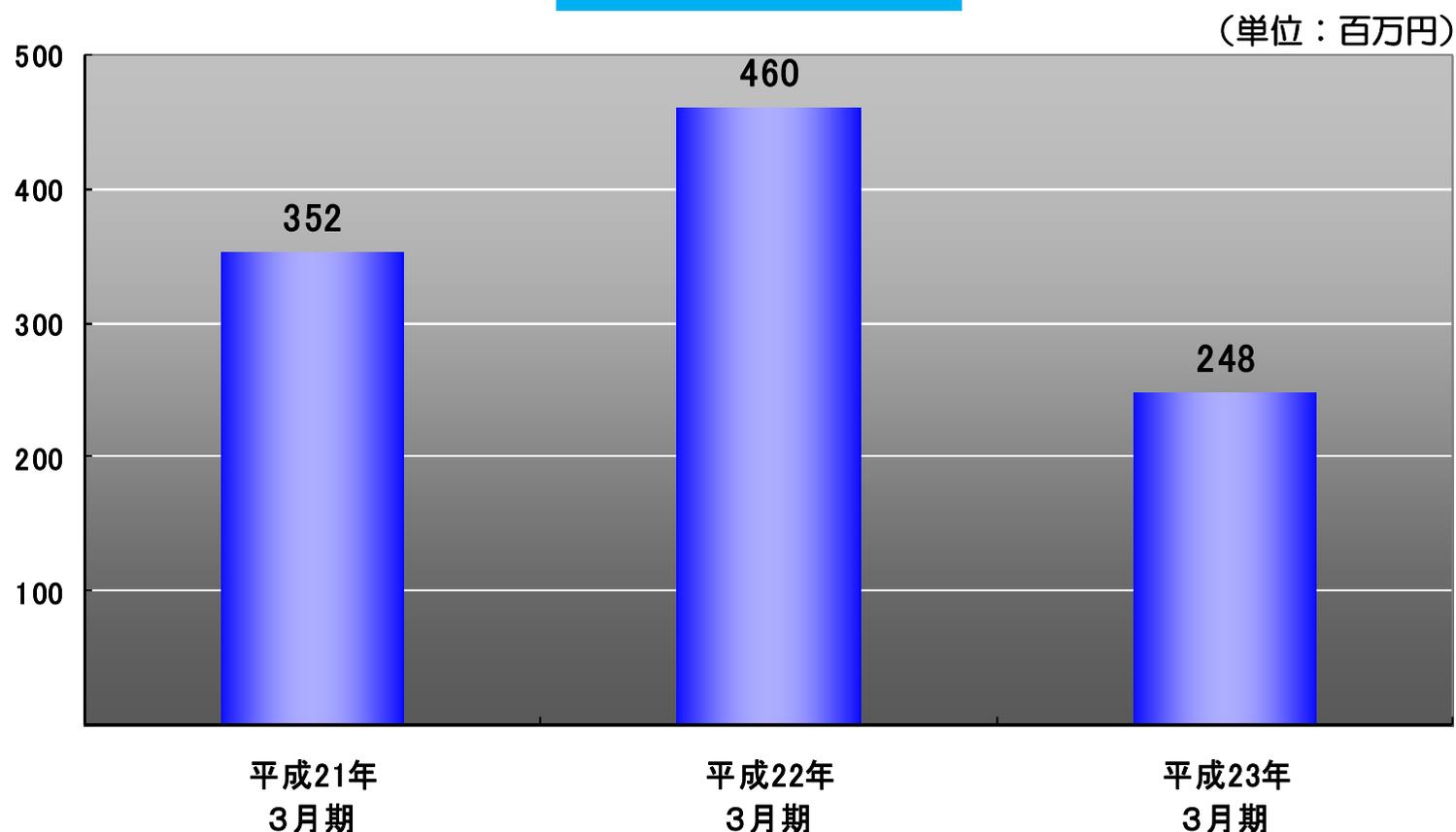
平成23年3月期 事業区分別業績

売上高



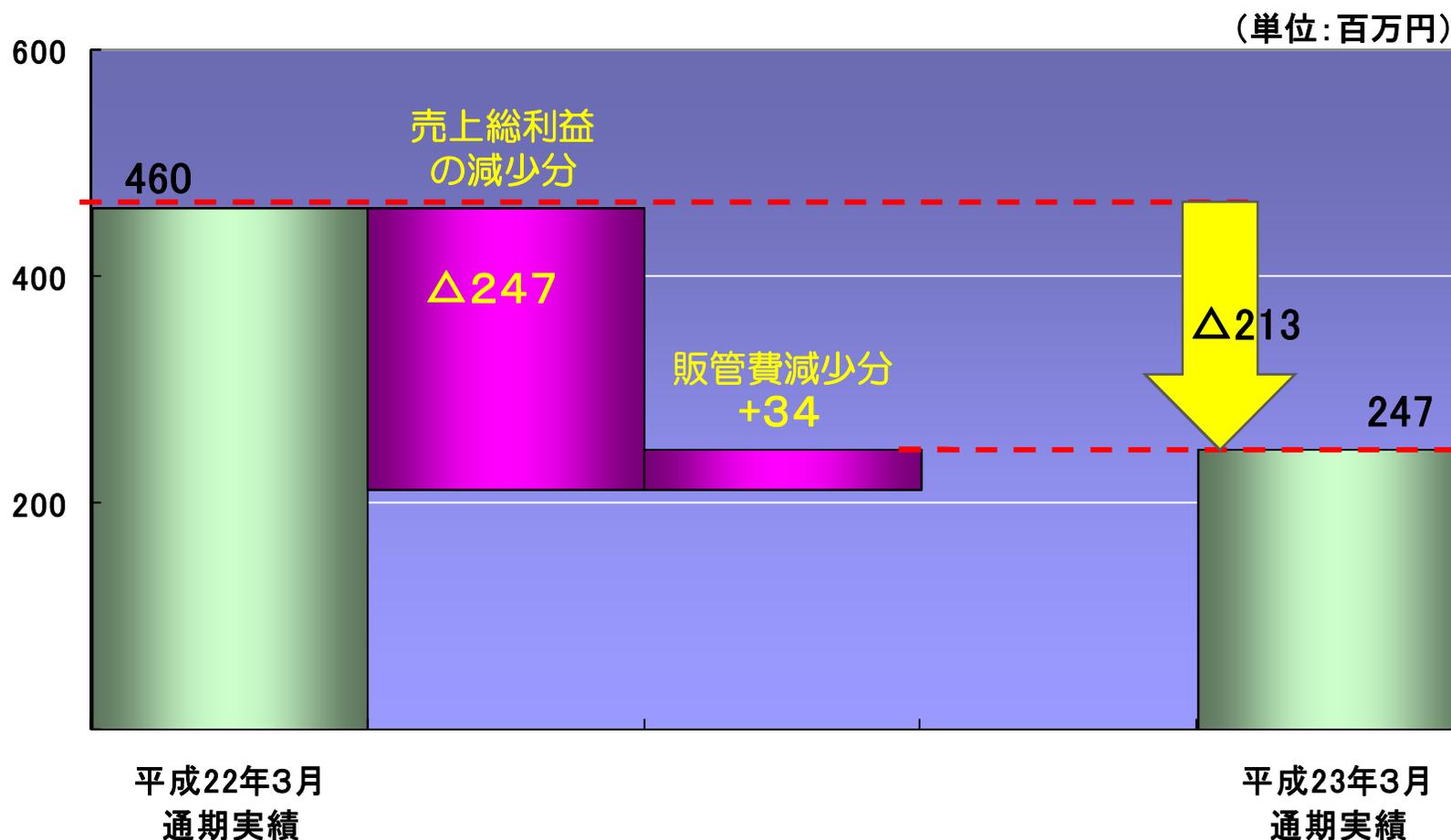
平成23年3月期 営業利益の推移

営業利益



●売上高の減少を補うべく外注費や人件費の削減等を行った結果、昨年度は生コンクリートJIS改正関連の特需があり営業利益増となりましたが、当期は売上高の減少を補えきれず営業利益減となりました。

平成23年3月期 通期営業利益分析



●売上減少を各種経費節減で補うも営業利益減益となりました。

平成23年3月期 連結財務諸表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	2,946	流動負債	1,448
		固定負債	1,092
		負債合計	2,540
固定資産	2,391	純資産の部	
		純資産合計	2,797
資産合計	5,338	負債・純資産合計	5,338

今後の経営方針

13中期経営計画

I T業界の最近の動向（市場）

情報サービス産業市場は、
2010年度も、マイナス成長
2011年度も、マイナス成長が続くと想定

情報サービス産業の本格的な景気回復は、
2011年春から、更に遅れる状況となった。

IT業界の今後の方向性

- ◆ クラウドが進展しているが、既存のIT市場は縮小傾向。
- ◆ クラウドの進展に伴って、セキュリティ関連が大きな市場となると予想される。
- ◆ 受託開発のオフショアが進展、国内の開発業務が減り、価格競争も強まる。
- ◆ 2015年のIFRS強制適用の予定により、関連特需が期待される。

当社の顧客動向

- ◆当社グループが主要顧客としている製造業で、生産が国内から海外へシフトしてきている。
- ◆製造現場において品質への要求が高まっている。
(検査が目視から画像にシフトしてきている)
- ◆生コンクリート産業では生コンクリート工場的大幅削減が予定されており、市場は引続き縮小する見込みである。
- ◆親会社である太平洋セメントグループでは、IFRSなどシステム関連への対応から、クラウド化及びサービス化のニーズは強い。

1 3中計の基本方針

2010年度実施した投資による会社変革の成果を計画通り実現し成果を上げる。

基本方針

1. システム販売を拡大する。特に画像処理事業を拡大する。
2. スtockビジネスを推進する。
3. 生産性を上げる。
4. 顧客満足度を向上させる。
5. 環境経営を推進する。（CO2排出量を2008年度比50%削減する）

重点施策

1. 営業力を強化する。

2. 画像処理システム、クラウド等においてシステム商品を開発する。

3. プライベートクラウド事業を強化する。

4. 生コンクリート業界向け情報システム商品をリニューアルし、シェアアップを図る。

次頁に続く

重点施策

5. 運用において安心、安全及び低コストを追求し、システム運用を拡大する。

6. システムインテグレーションからビジネス・プロセス・アウトソーシングへの転換を図り、新規ビジネスを展開する。

7. 一般管理費の削減。

8. 太陽光発電等積極的投資により節電対策を実施。

1 3 中計経営計画の数値目標

2013年度 連結達成目標

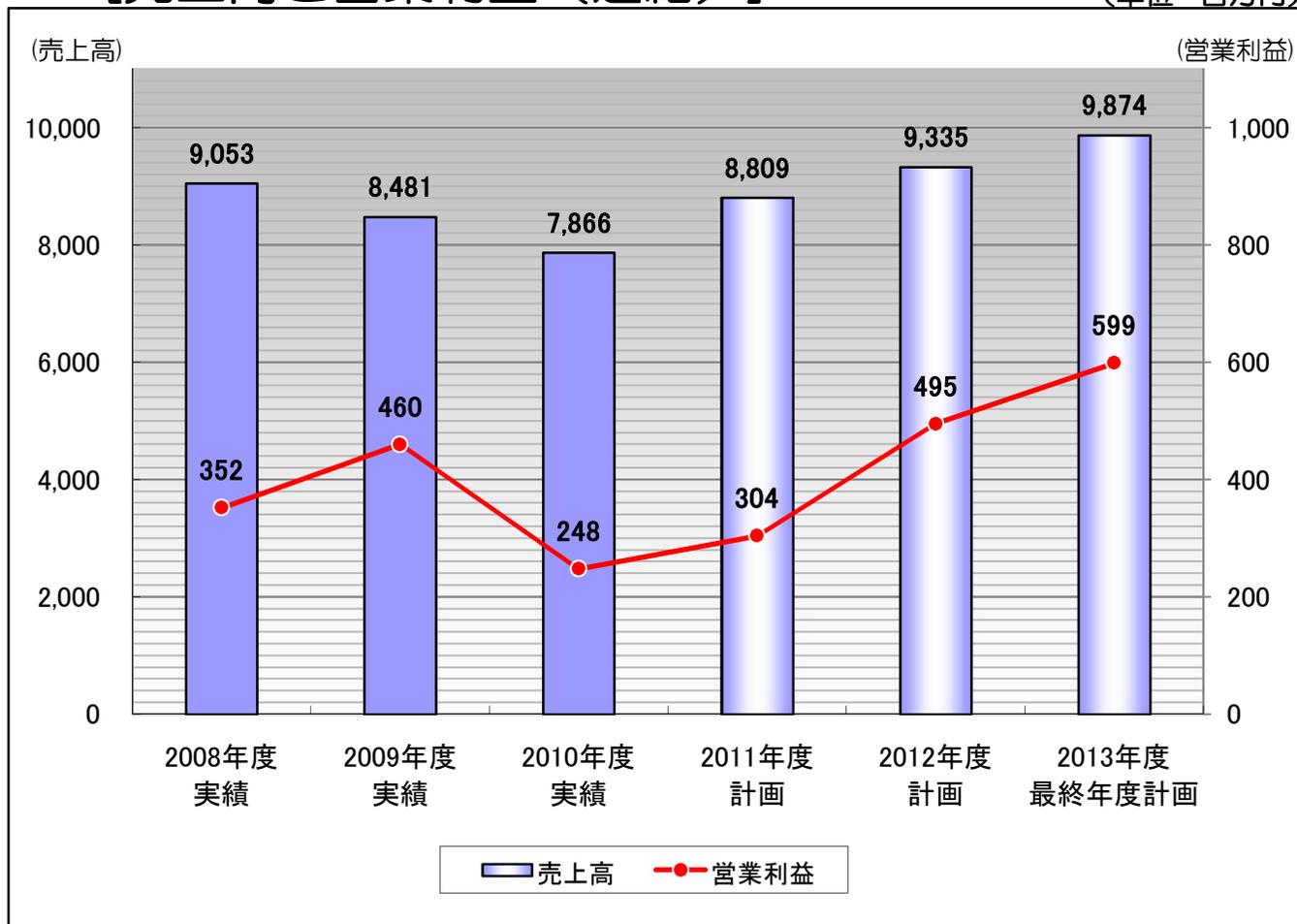
売上高 98.7 億円

営業利益 6.0 億円

13中期経営計画の数値目標

[売上高と営業利益（連結）]

(単位 百万円)



2013年度目標

売上高 98.7 億円

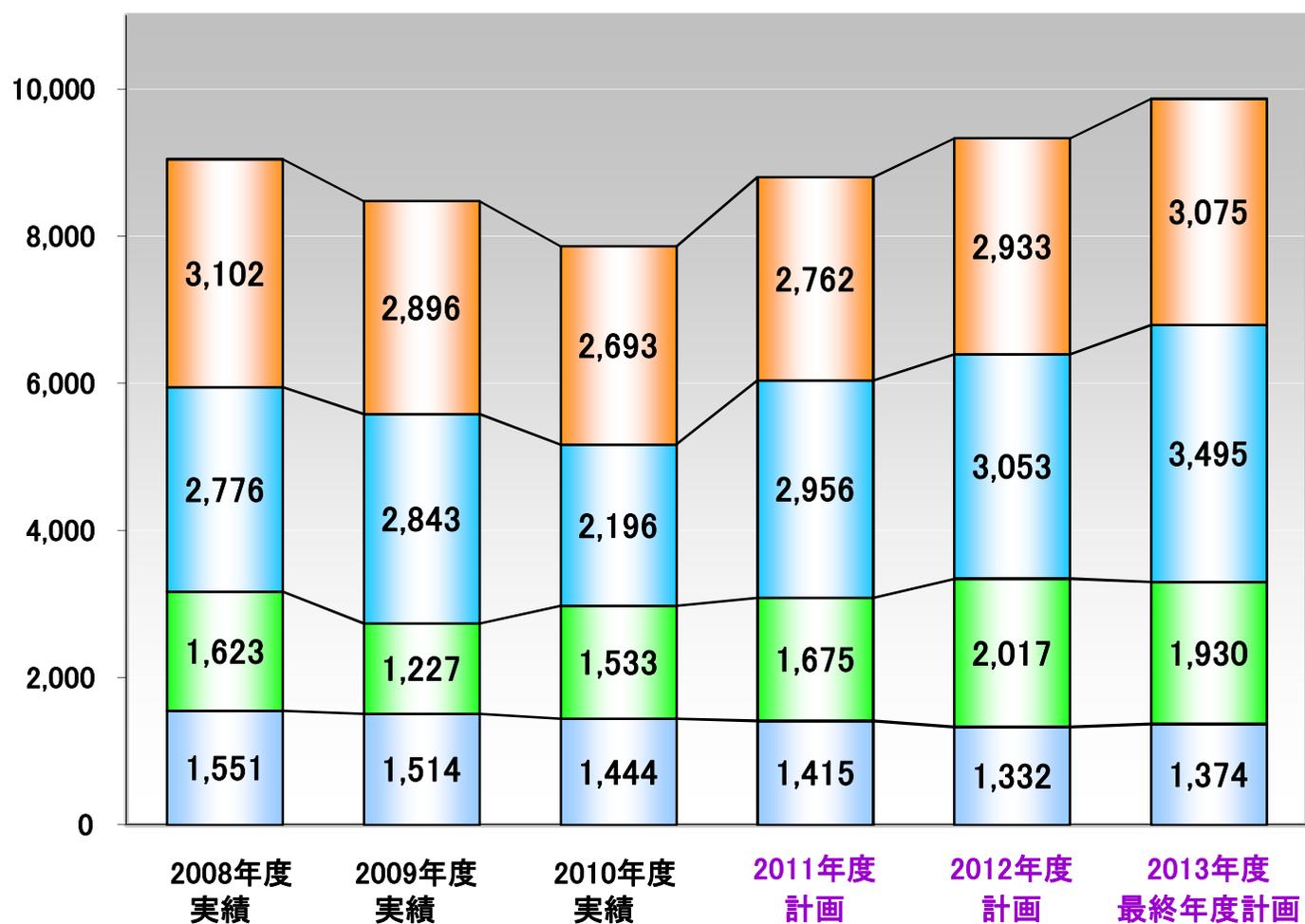
営業利益 6.0 億円

- ビジネスの転換を図り、13中期経営計画達成を目指します。

1 3 中期経営計画の数値目標

【区分別売上高（連結）】

（単位 百万円）



システム運用・管理等
クラウド、ストックビジネス拡大

システム販売
画像処理システムを中核に拡販

ソフトウェア開発
IFRS、ERPビジネスの展開

機器等販売
サービス化の推進

- システム運用拡大
- システム販売拡販により

システム運用管理
とシステム販売の
売上比率拡大

見通しに関する注記事項

本資料中の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合がありますので、その点ご承知おき頂きますようお願い致します。

お問合せ先は、下記にお願いします。

- ・ パシフィックシステム株式会社 総合企画部
- ・ 電話 : 048-845-2200
- ・ FAX : 048-845-2260
- ・ URL : <http://www.pacific-systems.co.jp/>